

助川 敏弥

Toshiya SUKEGAWA (1930-)

喜寿記念演奏会

— 全曲ピアノ曲による —



2007年 8月10日(金)

軽井沢 大賀ホール

後援：日本音楽舞踊会議・東京六華同窓会
主催：助川敏弥喜寿記念演奏会 実行委員会

助川敏弥 喜寿記念演奏会に寄せて

道下京子

作曲家助川敏弥が、このたび喜寿記念演奏会を開催することになった。助川の作曲家としての歩みは、日本の戦後史そのものと言ってもよいであろう。助川は、東京音楽学校から新制大学となった東京藝術大学を卒業し、戦後の混乱期のなかにあった1954年、日本音楽コンクールで第1位を獲得し、作曲家としてのキャリアをスタートさせた。その後の助川の創作の歩みと、彼の作品を見ると、ジャーナリズムやコマーシャルリズムの華やかな世界と関わりなく、自分の信念の音を求める歩みであったように思う。彼の作品は、余りに禁欲的である。数少ない音をさらに削ぎ落とし、真に本質的な音のみを抽出するその作風は、一般大衆の大喝采を期待するのではなく、ひたすら内面の自らの声に忠実な創作姿勢を語っている。今回、この記念演奏会で演奏される作品は、彼の音楽作品の個展であると同時に、戦後日本を体験した助川の反骨的精神を改めて省みる貴重な証言でもある。助川は、評論では旺盛な執筆活動を続けてきたが、自身の創作については、弁舌さわやかに語ることもないし、作家もどきに自身の作品について滔々と語ることもない。むしろ助川は、選びぬかれた音の語りの中にいつも本質を語っている。これらの作品も、彼の無言の主張を語っているのである。

本日の演奏会は、助川の個展であるだけでなく、戦後日本の音楽を改めて問い直す場であるかもしれない。

(助川敏弥 喜寿記念演奏会実行委員)

表紙楽譜：助川敏弥作曲「山水図」より

プログラム表紙：橘川 琢

プログラム編集：助川敏弥喜寿記念演奏会実行委員会

マネジメント：Shin-En 新演奏家協会 03-3561-5012 <http://www.shin-en.jp>

ごあいさつ

きょうはお出かけ頂きまして、まことに有難うございます。

まわりの方々の呼びかけと応援でこの催しを実現する運びとなりました。元来、人一倍でれ性の私にとって、自分からは発想しえないことです。人は一人では生きられないことをいたく感じております。若い頃から、人生の節目ごとに、出会った親切な方の援けを頂いてここまで歩んで来ることが出来ました。出会いは人生の宝、多くの出会いに恵まれた自分はなんと幸運であったかといま振り返っています。



宮沢賢治は亡くなる時、自分の原稿を指して、すべて自分の迷いの跡です、と言ったそうです。私もまた作曲の道は迷いの道でした。不動の信念などとは縁の遠いものです。いま、ひさしぶりに、バルトークやシェーンベルクを聴くと、鋼鉄のような意志の力に圧倒され畏怖と畏敬を覚えます。しかし、この人たちも実は迷いの中に居たのではないか、この頃そんなふうになるようになりました。信念とは、もしあるとすれば、それは深い迷いの跡に訪れるものではないか、そのように今は思われます。

私にとって、不動の信念というようなものではありませんが、当然の前提とした考えがないわけではありません。それは、音楽はあくまで相対的なものであること、聞く側を無視してはいかなる価値も生まれないということです。自然界では鳥や魚は科学では解明できない手段によって通信しあっているそうです。太古人間にもその能力があり、それが文明化して洗練されて芸術になったと私は信じています。音楽は人と人の心と全身の通信です。

私の作品がピアノ曲に集中している理由は二つあります。一つは若い頃、熱心にこの楽器の勉強をしたこと。なじみのない楽器は演奏者との技術的な相談が不断に必要ですが、それが不要であること。第二は私の心理的体質。北国生まれのせいか、私は外側に広がるより内側に凝縮する発想をもとめる気質を持っています。ピアノは一人の五本の指ですべてが可能です。これ以下は演奏者なしの電子音楽しかありません。

今日出演してくださる深沢亮子さんは、30年来、私の曲を演奏していただきました。私の作品の大部分は深沢 さんの手によって初演され世に出されました。今日は、手の内に入った曲のほかに最新作の一つ「Spica」の再演をして頂きます。宮谷理香さんは、ショパン・コンクールで登場した新鋭です。今日の最後の曲「パッサカリア」を昨年初演して頂きました。休みなしで30分を優に超える巨大作の演奏は音楽の力量だけでなく気力と体力の仕事です。若い演奏者の全力をあげての演奏を期待しています。武井さゆりさんは、端正玲瓏なピアノリズムの演奏家で、今日の第三の極を形成して頂きます。対談する道下京子さんは新進の音楽評論家です。ちらし他のデザインを担当してくれた実行委員の橘川琢君は私の門下の若い作曲家です。

2007年8月10日

勅 川 敏 行

曲 目

ゲッセマネのイエス BWV487「シェメリ賛美歌集」から ca.04'00 初演 武井さゆり
Geistliches Lied:「Mein Jesu」BWV487 aus “Schemelli's Gesangbuch”
バッハ作曲・助川敏弥編曲 (2006)

ピアノ曲集「白いつばさ」(2003～2004) ca.20'00 宮谷理香
Les Ailes blanches

さくらまじ (2003) - Spring Wind
Nachtlied - 夜のうた (2003)
六月のみずうみ (2004) - June Lake
えるむの樹 (2004) - an Elm tree
野分 (2004) - Nowaki
とび色の夜 (2004) - La Nuit brune
外山節 (2004) - SOTOYAMA-BUSHI

ソナチネ「青の詩」(1975) ca.10'00 深沢亮子
Sonatina “Poems in blue”

—— 休 憩 ——

「ひえつきぶし」(2002) ca.05'00 武井さゆり
Hietsukibushi

「山水図」(1981) ca.13'00 深沢亮子
Landscape, Landschaft (Berg und Wasser)

「SPICA」(2006) ca.7'00 深沢亮子

「プレリュード、パッサカリア、フーガ」(2004) ca.34'00 宮谷理香
Prelude, Passacaglia, Fugue

- 1989年 鹿島建設社との協力、同本社ビルのために音楽の制作を開始。以後、このシリーズは毎年2003年まで新作を制作。鹿島建設株式会社技術研究所の構内音楽の制作も開始。この年、CBSソニー社刊6枚組CD「リラクセーション・クラシック」を監修。月刊「音楽の世界」編集長。NHK・FM放送番組「現代の音楽」のテーマ曲作曲。この曲は1990年4月から1995年3月まで同番組で供用。
- 1990年 相模原市にスタジオを開設。脳力開発研究所のシンポジウムに参加。講演および、スタッフと共同でアルファ波誘発音楽の制作。カゴメ食品社、クッキングカプセル用音楽CD〈食欲の出る音楽「スペインの光と風」〉研究所スタッフで制作。「群」の監督としてハンガリー共和国、ブダペスト市での「ジャパン・フェスティバル」に参加。ウィーン、ロンドンを経て帰国。
- 1991年 道路公団東名高速道路足柄サービスエリア下り線の公団展示館内音楽を研究所スタッフで作曲制作供用。
- 1992年 ビクター・エンタテインメント社からバイオシク・ミュージック全曲新作CD全6枚、「星座」「水」「宇宙」「四季」「地球」「宝石」制作。1994年まで二度に亘り発売。全日空国際線、機内音楽クラシックチャンネル テーマ音楽作曲供用。VMM社のCD録音のためウィーンとプラチスラヴァへ出張。
- 1993年 VMM社のCD録音のためポーランドへ出張。VMM社からピアノのための「KOMORIUTA」CD発売。
- 1994年 日本現代音楽協会を退会。
- 1996年 バンダイ社からCD3枚セット「アルファ波のための子守歌：Kidds Kiddy World」全曲新作バイオシクで制作発売。京都会館、全国青年僧の会主催、「西山上人700年祭」場内音楽委嘱制作供用。
- 1997年 「群」の監督としてスペイン、フランスへ演奏旅行。
- 2002年 日本音楽舞踊会議代表委員。会運営の現役から引退。以後、作曲に専念。再び演奏用音楽の領域に戻り多作の期に入る。
- 2006年 日本音楽舞踊会議代表理事。喜寿記念演奏会開催。



1981年、深沢亮子氏と



武井さゆり氏と



7月生まれの三人（左から助川・宮谷理香・道下京子）